

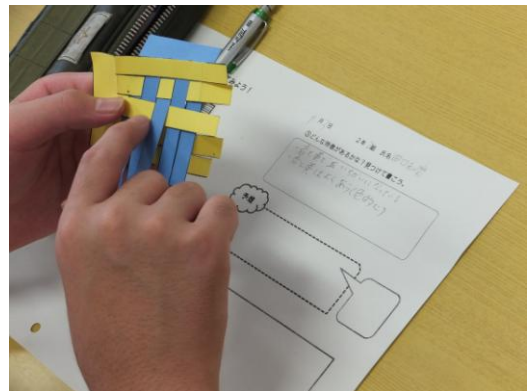


布はたより

《 平織り ～ 書くこと・説明すること ～ 》

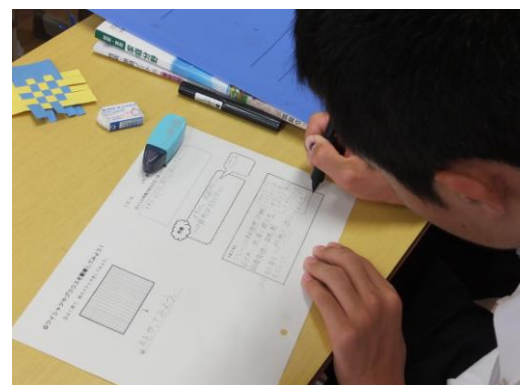
9月の技術・家庭科の授業です。

題材名は「日常着の手入れ～衣服の快適な着用～」、その時間のねらいが「身近な服の生地を観察し、布の特徴について考えよう。」、学習課題は「ワイシャツやブラウスの布をよく見て、特徴を見つけよう。」でした。この授業の目玉は何と言っても、「平織り（経糸（たていと）と緯糸（よこいと）を交互に浮き沈みさせて織る、最もシンプルな織物組織、構造）」を実際に生徒に体験させ、その特徴に気づかせようとした教材研究にあります。色紙を細く切った紙を、1本1本の糸に見立て、交互に織り込んでいきます。そこから「平織り」構造の特徴を見出させ、実生活での衣生活に結びつけさせようと考えられています。



追究の過程で、ひとりの生徒は次のように思考を深めていきます。「画用紙で追った布を、横から見てみると波打っているように見えます。」→「布は波打っているから、（肌に当たる部分と当たらない部分があって、）肌触りがいいんだと分かりました。」と「平織り」を実際に織ったことから、特徴を見出し、それを自分の言葉で表現していきます。

そして授業の指導案の中には、「書くこと・説明する活動」があります。今年の学校グランドデザインにある「基礎・基本の学力の確かな定着と『活用する力』の向上」の「書くこと・説明する活動を視点にした授業改善」が授業の中にちゃんと位置づけられています。それは「分かったこととして生徒に出してほしい内容や言葉」が指導案の中に位置付けていることから分かります。



一緒に参観した先生からは「根拠や体験をもとに『書くこと・説明すること』が、技術・家庭科における活用する力だと考えます。・・・この視点でこの生徒の学びを見ると、まさに『活用する力』を授業の中で発揮している姿だと感じました。」との感想がありました。「書くこと・説明すること」の内容のある意味づけと価値づけがこの授業においても見出せるのです。



《 西中の歴史 ～ 開校前から開校まで ～ 》

14日（月）には校長講話があり「西中の歴史～開校前から開校まで～」と題して、創立50周年を迎えている本校の創成期の振り返りがありました。お伝えします。

～今日は、開校50周年にちなんで、本校の歴史についてお話をします。歴史と言っても50年の歴史があるので、今日は開校前から開校までの、本校のルーツにあたる部分についてお話しします。

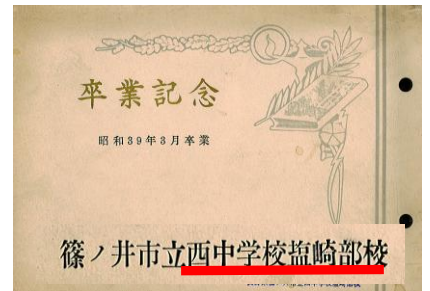
皆さんは、かつて篠ノ井市があったことを知っていますか？昭和34年、篠ノ井町と塩崎村が合併して篠ノ井市となり、昭和41年に長野市と合併するまでの7年間、篠ノ井市がありました。その当時、現在の西中の通学区は4つの中学校に分かれていました。篠ノ井市立信里中学校、共和中学校、塩崎中学校、通明中学校の4つの中学です。これは、共和中学校の昭和39年卒業記念写真です。



そして、これは同じ年の塩崎中学校の卒業アルバムの表紙です。この表紙を最初に見たときに「あれ？」と思ったことがあります。皆さん、それは何だと思いませんか？学校名を見てください。篠ノ井市立塩崎中学校ではなく、篠ノ井市立西中学校塩崎部校となっています。実は昭和38年に、新しい校舎がないまま信里中学校、共和中学校、塩崎中学校が統合され、篠ノ井市立西中学校となっていた時代があります。校舎がないので統合されたといっても、校舎は統合前と変わらず別々だったため、塩崎部校という名前になっていました。

（中略）当時、篠ノ井市の西と東に新しく2つの中学校をつくることは、篠ノ井市民の強い願いでしたが、当時の篠ノ井市は、財政赤字を抱えた今で言えば財政再建団体で国の指導下にありました。

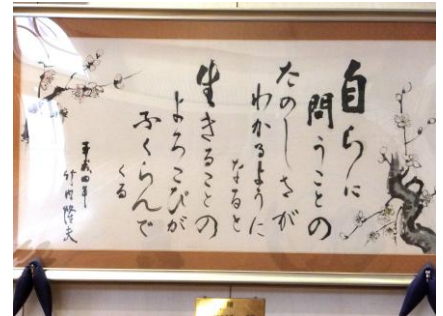
現在、財政再建団体というと、夕張市がそうですが、市がたくさんの赤字つまり借金を抱えて、その借金が少なくなるまで、市として行うべき様々なことを、極端に節約して行わなければならないのが財政再建団体です。ですから、当時の篠ノ井市にとっては、1校だけでも多額のお金がかかる中学校の建設を、同時に2校も建設することはとても無理なことでした。



市に建設費がないという厳しい状況だったので、地域の方々や保護者の方々も一緒になって、なんとかしようと知恵を絞りました。そして市にこんな提案をしました。「市の税金を上げて、中学校の建設費にあててください。」税金は誰にとっても安い方がいいに決まっています。それを、逆に税金を上げてくださると提案するのですから、中学校の建設がどれほど切実な願いだったのか分かります。しかし、この提案は全市民の納得が得られず、結局、あきらめざるを得ませんでした。

こうして学校の建設費がどこにもない、どうしようもない状態になってしまいました。そんなとき、ある市民の方から「このお金をぜひ学校の建設費に充ててください」と市に寄付の申し出がありました。当時としては、大金の寄付の申し出です。このことに力を得て、市の方々が篠ノ井の全区長さんに「市民の皆さんから寄付を募り、中学校の建設費にあてたい」と、提案したところ、区長さん全員が賛成してくれました。

こうして寄付がはじまります。そして、篠ノ井市民の皆さんからどれだけ寄付が集まったかという、なんと2億3千万円の寄付が集まりました。50年前の2億3千万円です。これは当時としては大変な金額です。しかも、篠ノ井市の当時の人口はたったの3万人でした。50年前は、今と比べれば日本も貧しい時代です。この当時、大学を卒業した人の初任給は、今の10分の1ぐらいです。単純に比較



はできませんが、当時の金額を今の金額に換算すれば 10 倍以上の金額になると思います。中学校を建設するために、これほどの寄付が集まったことから、当時の篠ノ井の方々にとって、中学校建設が本当に念願だったことが分かります。

こうして、篠ノ井市の東西に 2 校の中学校が建設できたわけですが、当時の市長さんや市の教育委員会の方々が大変な苦勞をして、そして何よりも、この篠ノ井の方々、まさに自分たちの身を削ってつくってくれた学校が、この篠ノ井西中学校です。これほどの熱意を持った方々がこの地域にたくさんおられたことは、本当にすごいことだし、本当にありがたいことだと思います。

さて、こうして昭和 41 年 4 月、信里中学校、共和中学校、塩崎中学校、通明中学校の西部地区を通学区として、本校が開校しました。開校したとき校名は、篠ノ井市立西中学校でしたが、その年の 10 月に篠ノ井市が長野市に合併し、長野市立篠ノ井西中学校に変わり現在に至っています。

本校の校舎は、この 50 年の歴史の中で改築や新築が何回か行われています。開校時の校舎です。校門、昇降口の位置が今と違います。東体の場所にはプールがありました。

昭和 63 年、東体育館新築・プール移設されます。平成 6 年～9 年にかけて、南校舎、中校舎・昇降口が改築され、泉心館と中庭もできました。そして平成 24 年、北校舎・西体育館改築され、現在に至っています。

こうして見ると開校当時の校舎はもう一つも残っていません。現在残っているのは、開校当時の校門だけです。しかし、開校当時の地域の方々の思いや、生徒や先生たちの思いは、私たちが受け継ぎ、残さなければいけないと思います。

開校 1 年目の初代生徒会長さんが、生徒会誌「銀河」創刊号に書いた巻頭言があります。そこには開校 1 年目の思いが綴られています。最後に、その一部を抜粋して読むので聞いてください。

◇この広い篠ノ井の一角に、どかっと腰を落ち着けた、とてもたのしい校舎、それが私たちの学舎、篠ノ井西中学校です。信越線の篠ノ井駅近くになり、列車の西の窓に近代的なクリーム色の校舎が見えてくると、誰かに見てもらいたく、また、まわりの人が「素晴らしい校舎だなあ。」と言ってほしくなるほど、誇らしくなってしまう素晴らしい校舎です。素晴らしい外見、それでは中身はもっと素晴らしいものにしてやろうと誓った 4 月でした。開校 1 年目、それはすべてが新しく、生徒会、部活動、文化祭も、全校生徒が一丸となって協力し、困難なことも一つ一つ解決し、これらの土台を一から創っていきました。新しく完備された校舎に、立派な校風をつくり上げ、社会に役立つ人間になるんだという強い決意。…私たちがの心に、そして西中の歴史に深く刻まれたこの一年。その歩みを振り返ると、希望という強い力が西中を底から押し上げてきたのではないかという気がします。…西中が、これから益々発展していくことを期待してやみません。



678 名の生徒諸君は 50 年の節目と歴史をちゃんと大切にしながら、毎日の学校生活を誠実にそして力強く過ごしてくれています。

《初秋の大活躍 ～ ソフトボール・野球 ～》



《野球部》

第 35 回カルチェ杯

準優勝

《ソフトボール部》

長野市中学校新人体育大会

優勝

